

めでいかすとり  
*Médicastre*

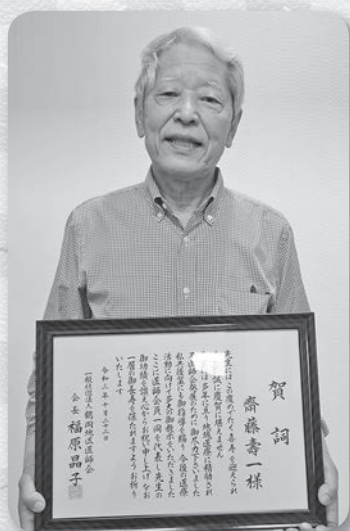


「 晩秋の鳥海山 」

# 祝 喜寿、病・医院永年勤続者表彰

例年開催しております観楓会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は開催を中止することになりました。例年本席上で執り行う長寿のお祝いにつきましては、喜寿を迎えられる齋藤壽一先生、佐藤純子先生には賀詞を、病・医院永年勤続表彰者につきましても、授与品をお届けしお祝いを申し上げさせていただきました。

## 喜 寿



齋藤 壽一先生



佐藤 純子先生

## 病・医院永年勤続者表彰



齋藤 美貴子 さん



小池 ぶち子 さん

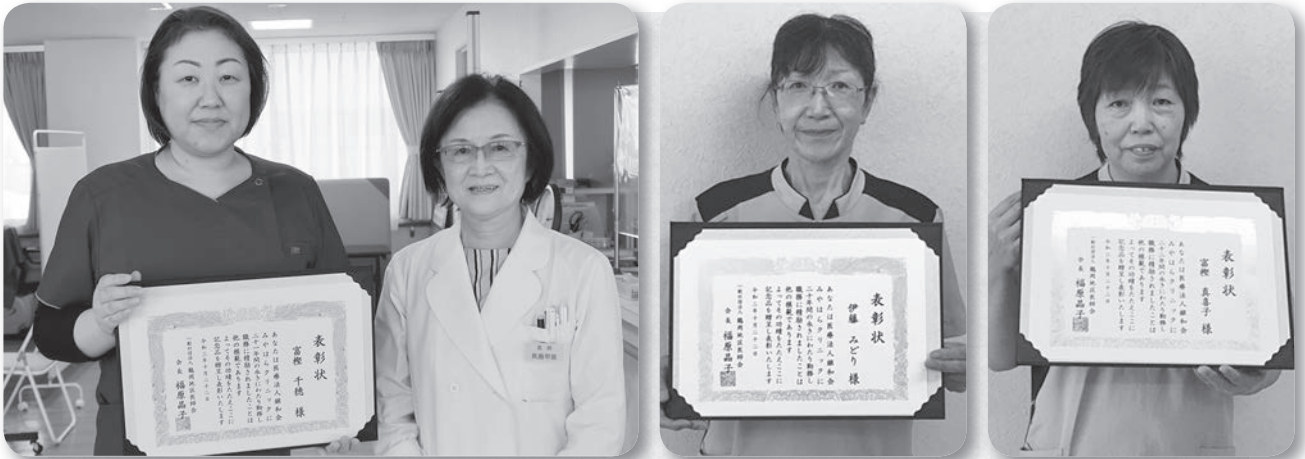


橋本 祐美子 さん



廣井 喜代 さん

齋藤胃腸クリニック



みやはらクリニック

富樫 千穂さん 伊藤みどりさん 富樫真喜子さん



すこやかレディースクリニック

井上 秀子さん 成澤 綾さん



鶴岡地区医師会

菅原 妙子さん 井上 祐司さん 佐藤 和佳さん

## YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ラジオ出演体験記

### ・嫌だった収録にまた行きたくなるの巻

宝田整形外科クリニック 阿部 周市

前回、私が「ドクターアドバイスで きょうも元気」(以下、ドクターアドバイス)に出演させていただいたのは、平成23年の8月でした。母が急死した年で、母が亡くなる前に収録し放送は亡くなった3日後からで、天国の母も聴いてくれるかなと思った記憶があります。

今回、当初出演依頼のあった時期はちょうど東京オリンピック(以下、オリンピック)にアンチドーピングスタッフとして参加する日程と重なっていました。加えてコロナ禍でドーピング検査から遠ざかっていたため、不器用な私はアンチドーピングの知識と実践を一から復習する必要があり時間もなく焦ってました。それで「ドクターアドバイス」出演は固辞していましたが、収録時期の延期とテーマがアンチドーピングでも良いとの事だったのでお受けすることになりました。

オリンピックが近づくにつれ、コロナ感染が急拡大し緊急事態宣言が出されました。事務長(家内)からクリニックと医師会への影響を考え、オリンピックへは行かないで欲しいとの強い要望がありました。国外からのアンチドーピングスタッフが続々辞退し、検査員不足が叫ばれていたおり、担当日・会場割りが決まっているにもかかわらずの辞退は敵前逃亡するようで嫌でした。長野オリンピックからアンチドーピングに関わらせていただき、東京オリンピックで引退と考えてましたのでなおさらでした。混乱していたためか組織委員会と連絡が取れず、先に参加していた先生に何とか連絡が取れ、代替えが見つかったとお聞きし辞退に至りましたが気持ちは複雑でした。

車で収録場所の山形メディアタワーに到着すると、ああこんな場所だったかな…セキュリティーが厳重なのは電波ジャック防止や、芸能人が訪れるためかな…などと思ったりしました。

収録はご存知の通り月曜日から金曜日分の5日分を1日で収録します。担当アナウンサーはフリーの佐藤アナウンサーでした。収録している際はあまり感じなかったのですが、放送を聞くと活舌と私が会話に行き詰った際のとっさの機転の良さはさすがと感じました。逆に私の声は活舌も悪くもごもごして最悪と思いましたが、後にお聞きいただいた患者様から、「上

手いっけの。さすがだの」とお世辞でも褒められると嬉しく思い、あんなに出演が嫌だったのに今度はもっと練習せねばと思いました。

好きな曲を毎日1曲選ぶのですが、今回はオリンピックにちなんだ曲で統一しました。どれもほとんどが私のカラオケのナンバーで、それを加藤プロデューサーに言ったら「歌ってもいいですよ」と言われちょっとビビりました。「また今度の時に歌います。」と言葉を濁しましたが…。

マイクも素晴らしく40万円位するようで欲しくなりました。そのマイクにスタンドを付けたら永ちゃんやプレスリーのような(古い?)パフォーマンスが出来て、下手な私の歌もうまく聞こえる気がしました。

原稿を書いていたので割とスムーズに話せましたが、時々舌を噛んではやり直しました。ただ以前の収録の際は、一度間違えるとセンテンスの初めまでテープを巻き戻しし、そこから再集録をしたと思いますが、今回は間違えても録音を止めないで間違えたところをもう一度言い直せば良く、録音技術の進歩に感動しました。

加藤ディレクターからこの番組は18年間続いているが、アンチドーピングのテーマは初めてのテーマでしたとあって下さったのが嬉しかったです。彼はラジオ講演者にとって以下の3つの喜びと楽しさがあるという事を収録後に話してくれました。

1. 放送局のスタジオという非日常での環境の中で、アナウンサーと対談できることの楽しさ。
2. 自分が出演した放送を聴くことの楽しさ。
3. 後日、「先生、ラジオ聴きましたよ」という反響がある楽しさ。

放送終了から2か月経った今も、患者様に「ラジオ出てましたね!」と言われることがあり、案外聴いている方がいらっしゃるのだと驚かされます。

そして最後に鶴岡地区医師会の先生方にとメッセージもいただきました。

「お忙しいところいつも山形まで収録に来ていただき誠にありがとうございます。地域、県民の皆様の医療の充実と発展のためこれからもご尽力ください。もし鶴岡地区医師会からこの番組のオファーがございましたら是非、出演を快諾していただけますようお願いいたします。」

# マイペット&マイホビー

— 第 114 回 —

## 猫が代わりに、親孝行

鶴岡市立荘内病院 白幡 康弘

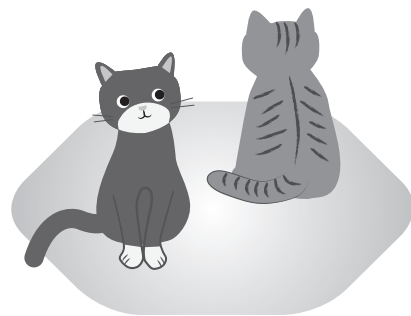
もとより仕事人間な私で、大した趣味もありません。ゴルフせず、麻雀知らず、大学からやっていた硬式テニスも、昔は当院小児科の吉田先生と病院対抗戦など行っていましたが、膝を痛めてからご無沙汰です。趣味は仕事と手術くらいかなと思っています。

ペットに関してですが、昔から実家で猫を飼っていました。小学3年生の時、湯田川温泉近くの藤沢地区の親戚から子猫をもらい、段ボールに入れて自転車で連れてきました。小学生の私がもらった猫2匹を段ボールに入れ、自転車の荷台に固定し、一生懸命こいで連れて行きました。湯田川温泉リハビリテーション病院、当時は国立療養所の下の道路くらいで段ボール箱の隙間から子猫が頭を出し、逃げそうになり慌てたものです。何とか清水の実家まで連れて行き、動物嫌いな祖母（猫がいると猫の鼻に湿布をつけて追い出すような）を説得し、飼い出しました。そこから、何代も実家に猫が居着きました。酒田に自宅を購入して1年たち、子供も小さく、意を決して猫を2匹飼うことにしました。今時子猫をもらうというのが困難な時代です。初めてお金を払って鶴岡のホームセンターのペットフェアで、ロシアンブルーとアメリカンショートヘアの2匹の子猫を買いました。今よりは、価格は低いのですが、1匹10万弱というところです。飼っていた経験もあり、大丈夫と思っていたのですが、アメシヨのほうはトイレもうまく出来ず、猫特有の尿管結石・尿毒症になり、餌を変えるなど、多頭飼いには向かない状況で頭を痛めました。そのままではなんとも出来ない状況でした。やはり、

病院で手術などしてる方が気が楽という状況でした。そんな折に実家の年老いた猫が亡くなり、意を決して実家に猫ケージなど一式買いそろえ、婆さん（私の母親、孫からは以前から猫婆さんと言われてました）に頭を下げて頼みました。実家は昔の農家の本家で、家は広く、裏はすぐ山でという環境です。性格的にもおっとりして、柱などに爪もとがず、結構すぐに馴染んでくれました。ちゃんとした名前はありませんが猫にもプライベートと言うことでアメシヨとさせて下さい。婆さんにくっついてご飯を良く食べ（今時の猫はペットフードしか食べません、ちゃんと形した魚など見向きもしません）、随分デブ猫となりました。それでも婆さんが可愛がり、大きなお腹で実家の庭に入ってくる近所の猫を蹴散らしていたようです。それからしばらくは、猫のいる実家として、孫から猫婆さんと言われ、暮らしていました。私が出来ない孝行をしてもらいました。しかし、いつかは老いるものです。婆さんはもともと働き者のせいで体にながたがきたのですが、体調不良となりました。荘内病院に私が赴任してきたこともあり、自分の科に入院させ、面倒を見ていました。関節など症状が悪く、自宅生活が出来ない状況になってしまいました。自分の息子のところの病院、湯田川温泉リハビリテーション病院、期限が来て、間をつなぐためにまた自分のところの病院と入院が続きました。当然、認知症も進み、理解力は落ちてきますが、自分の猫は忘れず、アメシヨのことは話します。実家に不在の期間は、猫の面倒を見る必要があり、私が手術が遅く終わっても実家に行き、猫のト

イレ掃除や飲み水の交換など通いました。アマゾンにて猫餌の自動給餌器を購入し、使っていましたが、やはり人が行くとなつっこく、婆さんがいない寂しさと思われました。そんな生活が続いていき、かなり大変でしたが私も飼った責任があり、何とか通い続けました。しかしあるとき、餌の減りが少なくなってきました。むくんだ感じで嫌な思いでした。動物は食わなければ寿命と考えます。私も医者、色んな死を見て来た者として、あるときこれは死ぬなど感じました。動物病院に電話をしまくりましたが、無理でした。入院中の婆さんに話し、急遽外泊し、最期を看取することにしました。孫娘や同僚のお世話になっている先生に手伝ってもらい、婆さんを多少無理でも実家に連れて帰りました。遠方の兄弟は反対しましたが、うるさいと一喝して決めました。茶の間に布団敷き、息絶え絶えなアメショーを寝かせ、婆さんが抱くようにさせました。ちょっとだけ、ニャーと鳴いた感じがしました。こちらの空耳だったかも知れません。抱かれて寝たあとは虫の息で、静かに時間が過ぎていきました。だんだん息が弱くなり、約30分後に婆さんに抱かれながら、来るのを待っているがごとく息を引き取りました。安心したようでした。深夜で、そのまま朝まで婆さんに抱かれておりました。朝方、冷たく、

硬くなったアメショーを毛布に包んで、孫娘と共に実家の庭に埋葬しました。急ごしらえの墓を作りました。私も朝から仕事で、婆さんを連れ、病院に戻りました。何とか最期にあわせることが出来ました。私が出来ない孝行をしてもらった猫ですが、飼い始めた責任が果たせたかは、なんとも言えません。ただ、今までの猫もみんな婆さんにくっついていました。現在、歴代飼った猫があので待っていますが、婆さんはみずばしょうでお世話になっています。婆さんもぼけ、看取ったことは覚えていないようです。写真を見せると、名前はでて来ますが、婆さんの意識の中ではベッドの下に隠れて、呼んだら来ると言ってます。ご飯もあげないといけないと。私に代わって猫が私の出来ない孝行を随分してもらったと感謝しています。ちなみにロシアンブルーの方は元気で、たまに帰ると真っ先に出迎え、寝転んで腹を出して撫でてと甘えてきます。



### 令和3年度 鶴岡地区医師会勉強会のお知らせ

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、開催を中止しておりましたが、今年度は下記の通り開催することとなりました。正式なお知らせにつきましては、鶴岡地区医師会会報で後日お知らせいたします。

日 時：令和4年2月10日(木) 19:00～

場 所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

演 題：在宅で質の高い緩和ケアは提供できるのか？

～訪問診療専門クリニック立ち上げからの2年をふりかえって～

講 師：医療法人社団侑真 訪問診療クリニックやまがた

院長 奥山 慎一郎 先生

## Introduction

## 研修医

鶴岡市立荘内病院研修医 1 年目 太田 悠自



皆様こんにちは。鶴岡市立荘内病院の研修医 1 年目の太田と申します。今年の 4 月に赴任後、約半年が経過し仕事や鶴岡での生活にも慣れてきました。今回は、些事ではありますが、私が当院での研修を選んだ

きっかけについてご紹介したいと思います。

東京生まれ、東京育ちの私ですが、東京の暑さや人混みに嫌気が差し、大学進学をきっかけに“脱東京”することにしました。仙台に親戚がいたこともあって、東北大学に進学しました。仙台は、思ったより夏が暑かったものの、それほど寒くならず、雪も少々で住みやすい場所でした。中学生のときに、登山好きの先生に引率されて何回か山を登ったこともあり、それを思い出して大学では登山サークルに入りました。

登山サークルは、医学科と保健学科の学生で主に構成されていました。4 月の新歓登山と、忘年会でしか現れないような人がいるようなゆるいサークルでした。私が入学した時は全学の体育会系の山岳部と一緒に活動や走り込みなどをやっていたものの、方向性の違いなどあって一緒に活動することはなくなりました。普段は月に 1,2 回程度、週末に宮城県などの近くの山に日帰りで行き、縦走など、山で泊まるような山行は毎年の夏季休暇に 1,2 回程度行っていました。私は、縦走で飯豊、岩手山、尾瀬に行ったほか、宮城県内のメジャーな山はおおむね登りました。

サークル以外の課外活動として、基礎の研究室に通って研究をしていました。研究成果が少しまとまり、学会に出したところ口演発表に採択されました。私のはじめての口演発表は 9 月の鶴岡でした。慶應の研究所が主幹となって、

荘銀タクト鶴岡を会場に行われました。私の発表した会場は、タクトの別館の小さい会議室で 20 人程度が入っていました。私は、トレイルランニングの靴を履いて、モンベルの T シャツを着て、パワーポイントのスライドが入ったマックブックをザックに入れて会場におもむき、その格好で発表しました。翌日に鳥海山に登るためでした。

ほぼ全員の参加者がスーツを着ている臨床医学の学会では、考えられないことですが、基礎系の学会ではラフな服装の参加者は多い場合もあります。私の発表した会場では、スーツを着ている方は数名でした。せっかく良い季節に庄内に行くのだから鳥海山に登ろうと考えたものの、旅費支給のかねあいもあって、発表翌日に登山することにしました。学生の際は車を持っておらずバスを使ったため、できるだけ荷物を減らそうとした結果、登山姿で発表することになりました。発表は無事に終わりました。

翌日は 4 時に起きて、湯の台から登り始め、9 時ごろには新山を登頂し、正午には下山して仙台に帰りました。日が昇る際に、朝焼けにつつまれた庄内平野は美しく、誰もいない登山道で息をきらしつつ駆け上がりながら、何度も振り返ってその眺望を再確認していました。

臨床研修病院の 1 次募集で、宮城県の病院に不採用となったあと、思い出したのは鳥海山から見た庄内平野でした。調べると荘内病院の定員に空きがあり、応募することにしました。面接を受けて 1 週間後に採用が決まりました。

病院でふとしたときに、窓から鳥海山を眺めている自分に気がきます。コロナ禍で、在学中にサークル活動が中止になって以降、なんとなく足が遠のいて、山登りをしていません。いまは病棟にあがる階段を使うだけで息がきれえます。

## 表 彰

この度、次の先生方が栄えある表彰を受けられました。  
誠におめでとうございます。



真島医院  
真島 吉也 先生

### 令和3年度学校保健及び学校安全表彰 (文部科学大臣表彰)

長年にわたり学校保健及び学校安全の普及と向上に  
尽力され多大の成果をあげられ、文部科学大臣より  
表彰されました。(令和3年10月)

### 山形県救急医療・救急業務関係者知事表彰

長年にわたり地域の救急医療・救急業務にご尽力された功績が認められ  
山形県知事より表彰されました。(令和3年9月7日)



土田内科医院  
土田 兼史 先生



老人保健施設 のぞみの園  
尾形 直人 先生



故 佐久間 文明 先生のご冥福をお祈り申し上げます。

令和3年9月29日ご逝去 満71歳

## 新入会員紹介

～令和3年8月1日入会～

氏 名：山<sup>やま</sup>崎<sup>ざき</sup>竜<sup>りゅう</sup>司<sup>じ</sup>

生年月日：1975年11月24日

生まれた所・育った所：東京都

勤務先・診療科目：三川病院・精神科

出身校：琉球大学

趣味・特技：語学、読書

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：山形県に住むのははじめてですが、よろしく願いいたします。

## 表 紙

## 「 晩秋の鳥海山 」

齋藤 壽一

里山からの帰り道、冠雪の鳥海山が、一瞬のきらめきを呈した。まるですぐ来る赤鳥海を拒否するが如くに、凜とした山容を認めた。

里山も、まもなく雪景色となる時、短い秋を惜しむ風情を切り撮りたくて、シャッターを押した。

## 編 集 後 記

日に日に秋が深まる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。個人的には木枯らしが吹いたりみぞれが降ったりする季節が一番嫌いで、一層の事もっと気温が下がり地吹雪で荒れている天候の方がまだましと思っています。

新型コロナ感染症はお盆過ぎから庄内地域でも急増し、庄内病院の病床が逼迫する状況に陥りました。そこで抗体カクテル療法と地域連携を柱とする「庄内システム」が立ち上がりました。重症化が予想される軽症患者を積極的に入院治療し、1-2泊で退院後は地域に委ねる連携です。医師会の先生方にもお力添えをいただき、本当にありがとうございました。その後9月末頃から全国的に感染者が減少して、新型コロナ第5波は漸く収束に向かっているようです。庄内地域でも2週以上新規患者発生がないため、院内での規制が少しずつ緩和されてます。早ければ12月にも3回目のワクチン接種が始まりますし、モルヌピラビルという新たな経口治療薬が日本でも特例承認されそうで、新型コロナが季節性インフルエンザのような感染症に近づいていく、そんな期待が持てそうな感触があります。

各種年金や高齢者肺炎球菌ワクチンのお知らせが、今年に入って相次いで我が家に舞い込んできました。取りも直さず今年65歳になる証しで、65歳から74歳までを前期高齢者と呼ぶ日本では高齢者の仲間入りになります。自分が「高齢者」？ 到底受け入れがたい言葉ですが事実は否定できず、せめて気持ちだけは若さを保っていたいと思いました。

(吉田 宏)



編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・吉田 宏・木根淵智子・菅原真樹・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>